

目次

調査概要	P3
対象者のプロフィール	P4
Summary	P5
コメント	P9
1 健康被害救済制度 認知率	P10
2 医薬品副作用被害救済制度 認知率	P11
3 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P12
4 健康被害救済制度 内容認知	P13
5 健康被害救済制度 認知経路	P15
6 健康被害救済制度 教えてもらった人	P16
7 健康被害救済制度 パンフレット・ポスター・接触場所	P17
8 広告の認知率	P18
9 広告の接触場所	P19
10 健康被害救済制度 関心度	P20
11 健康被害救済制度 情報収集の方法	P21
12 副作用の経験	P22
13 副作用で治療を受けた経験	P23
14 健康被害救済制度を利用した経験	P24
15 健康被害救済制度利用時の相談先	P25
16 健康被害救済制度利用時の相談相手	P26
17 健康被害救済制度利用時に苦労した事柄	P27
18 健康被害救済制度を利用しなかった理由	P28
19 健康被害救済制度 今後の利用意向	P29
20 健康被害救済制度 利用意向の理由 有効な周知の方法	P30
付録:調査票	P31

調査概要

- ・ 調査目的
健康被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象
マクロミルモニタ 20歳以上の男女
- ・ 調査地域
全国
- ・ 調査方法
インターネット調査
- ・ 調査時期
2009年7月25日(土)～7月27日(月)
- ・ 有効回答数
3,119サンプル
(人口統計比にあわせて回収)

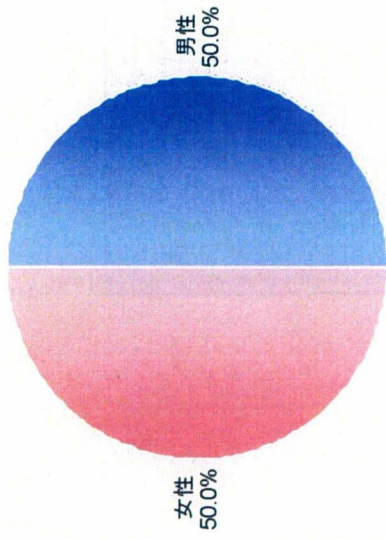
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
男性_20代	14	22	113	55	50	17	9	33
男性_30代	13	20	115	57	50	17	9	30
男性_40代	14	24	107	57	48	18	10	36
男性_50代	15	25	99	57	49	19	11	37
男性_60才以上	15	25	96	58	50	20	11	35
女性_20代	14	22	107	54	53	18	9	37
女性_30代	14	20	110	56	54	17	9	33
女性_40代	15	25	98	55	49	18	11	38
女性_50代	16	24	96	57	51	20	11	37
女性_60才以上	15	26	89	58	50	22	12	39

(人)

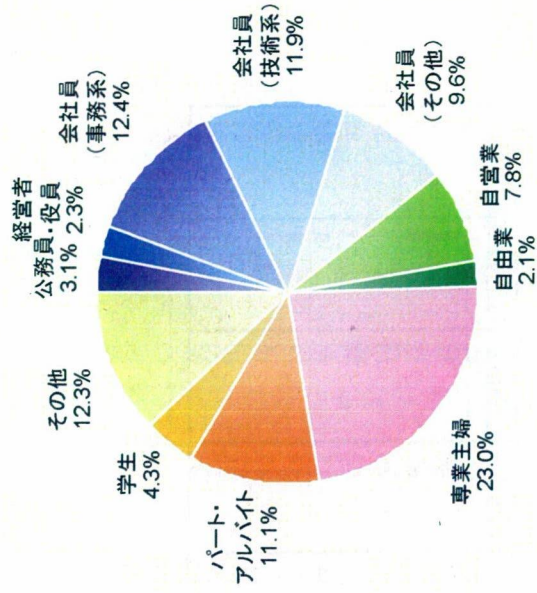
- ・ 調査実施機関
株式会社マクロミル

対象者のプロフィール (n=3,119)

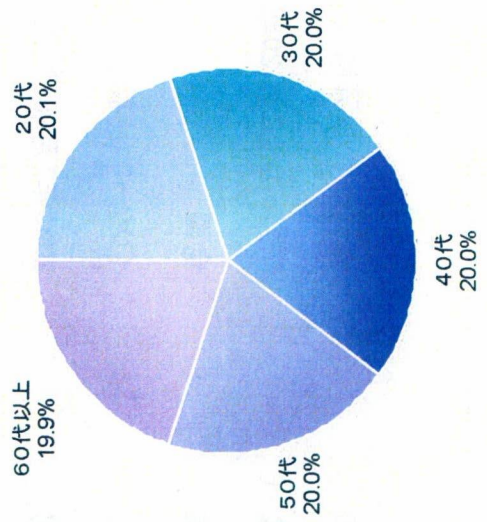
【性別】



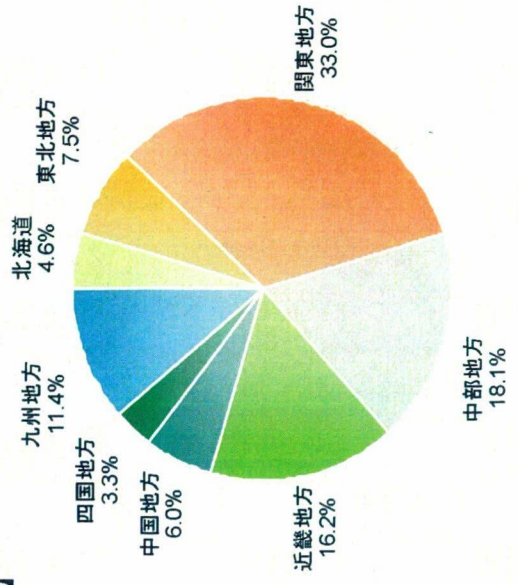
【職業】



【年代】



【居住地】



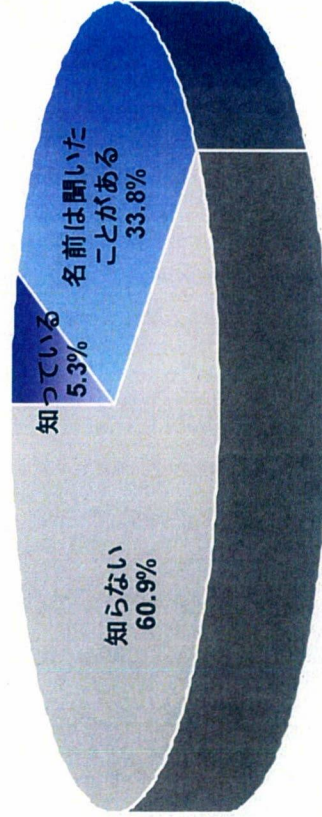
Summary

Summary

【健康被害救済制度 認知率】

単一回答

(n=3,119)

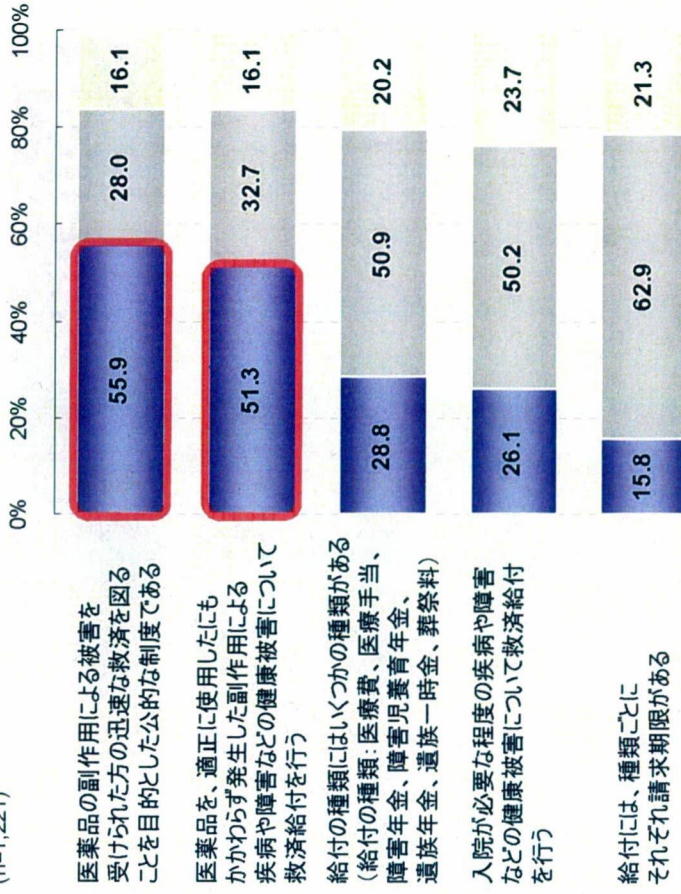


【健康被害救済制度 内容認知】

単一回答

(n=1,221)

■ 知っている ■ 知らない ■ 分からない



認知計 39.1%

✓健康被害救済制度の認知率は、「知っている」、「名前は聞いたことがある」を合わせると39%。确实認知(「知っている」)は、5%にとどまる。

- 『東北地方』の認知率が約半数と、他のエリアと比べ高いが、确实認知は6%と差は見られない。
- 認知率に男女差は見られないが、确实認知は『男性』がやや高め。
- 男女『60代以上』は、他の年代よりも認知率が高め。

✓健康被害救済制度認知者の認知内容を見ると、「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の認知が過半数となっている。

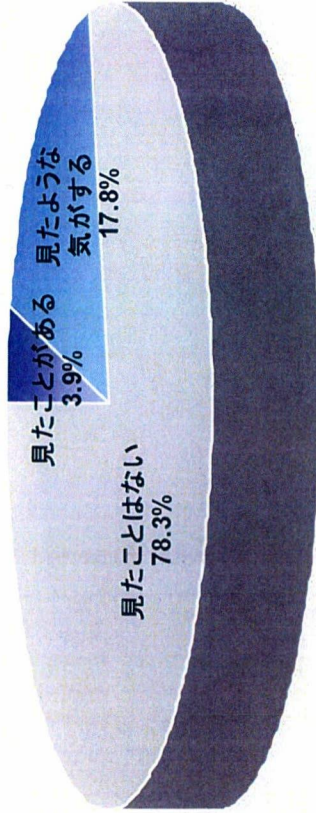
- 『北海道』は、「給付の種類にはいくつかの種類がある」、「四国地方』では、「給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」が他のエリアと比べ高めである。

Summary

【広告 認知率】 単一回答



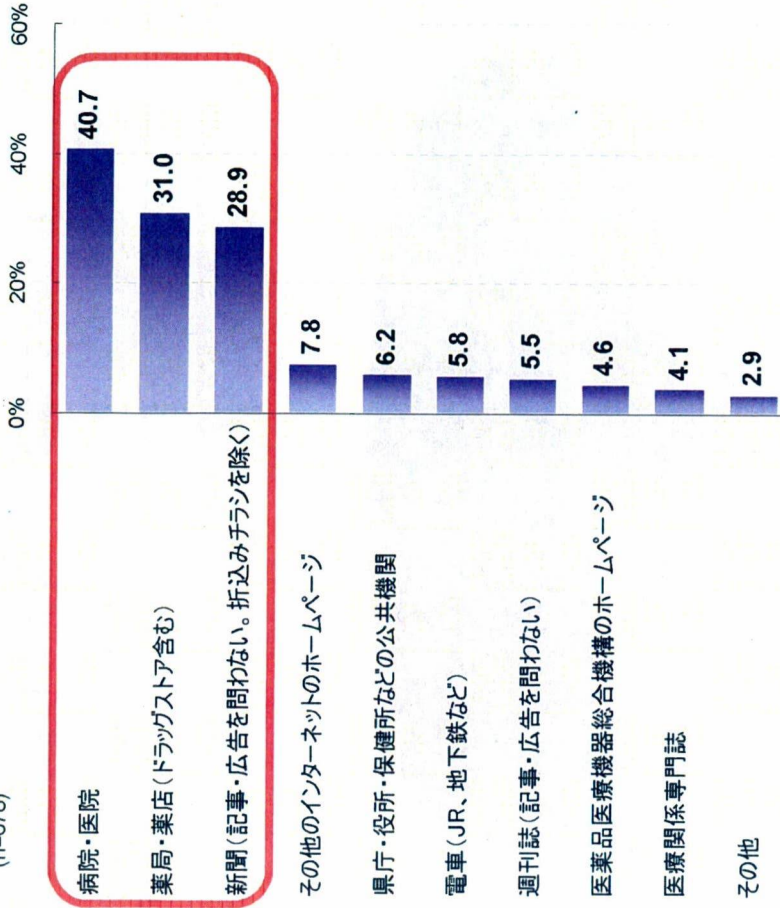
(n=3,119)



見た計 21.7%

【広告 接触媒体】 複数回答

(n=678)



✓ 広告の認知率は、「見たことがある」、「見たような気がする」を合わせると22%。確実認知(「見たことがある」)は5%に満たない。

- 『東北地方』、『北海道』、『四国地方』、『九州地方』の認知率が、25%前後と高め。
- 『男性』の認知率が『女性』をやや上回っている。高齢層の認知率が高めの傾向。

✓ 広告認知者の接触媒体は、「病院・医院」41%がトップ。以下、「薬局・薬店」、「新聞」が3割前後で続き上位を形成している。

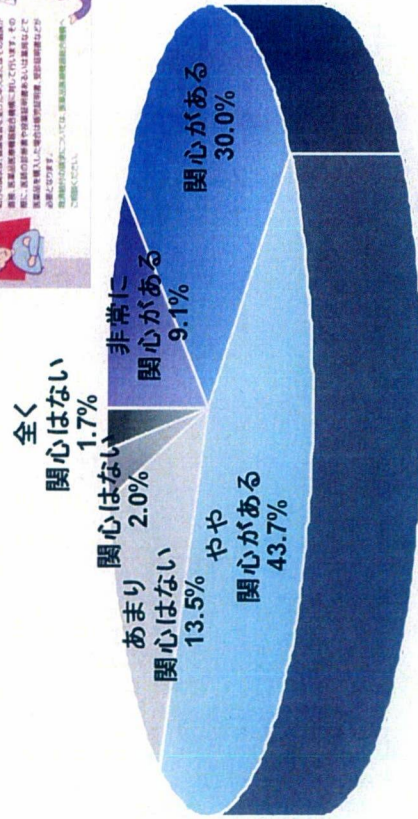
- 「病院・医院」「薬局・薬店」は男女30代を中心に高め。
- 「新聞」は、男女とも『60代以上』で高く、『女性60代以上』では接触媒体のトップとなっている。

Summary

【健康被害救済制度 関心度】

単一回答

(n=3,119)



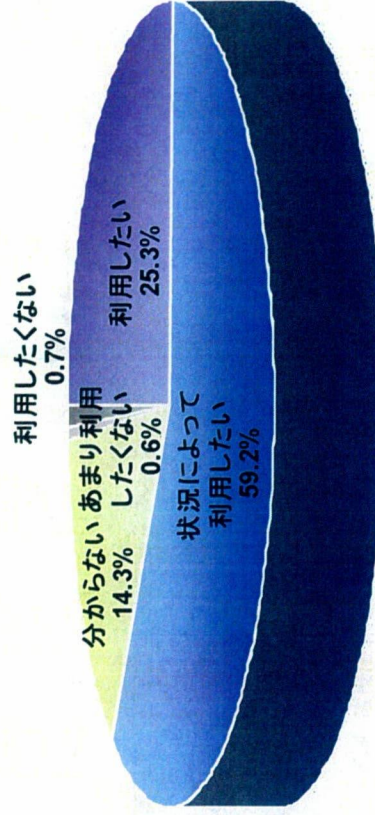
TOP2 39.1%

TOP3 82.8%

【健康被害救済制度 利用意向】

単一回答

(n=3,119)



利用したい計 84.4%

✓健康被害救済制度への関心度は、「非常に関心がある」～「やや関心がある」を合わせると83%。

- エリア別に見ると、いずれの地方も関心度が8割以上となっている。
- 年代別に見ると、関心の度合いは、『60代以上』で非常に高まり、『非常に関心がある』+『関心がある』で5割前後を占めている。

✓健康被害救済制度の今後の利用意向は、「利用したい」、「状況によって利用したい」を合わせると8割以上を占める。

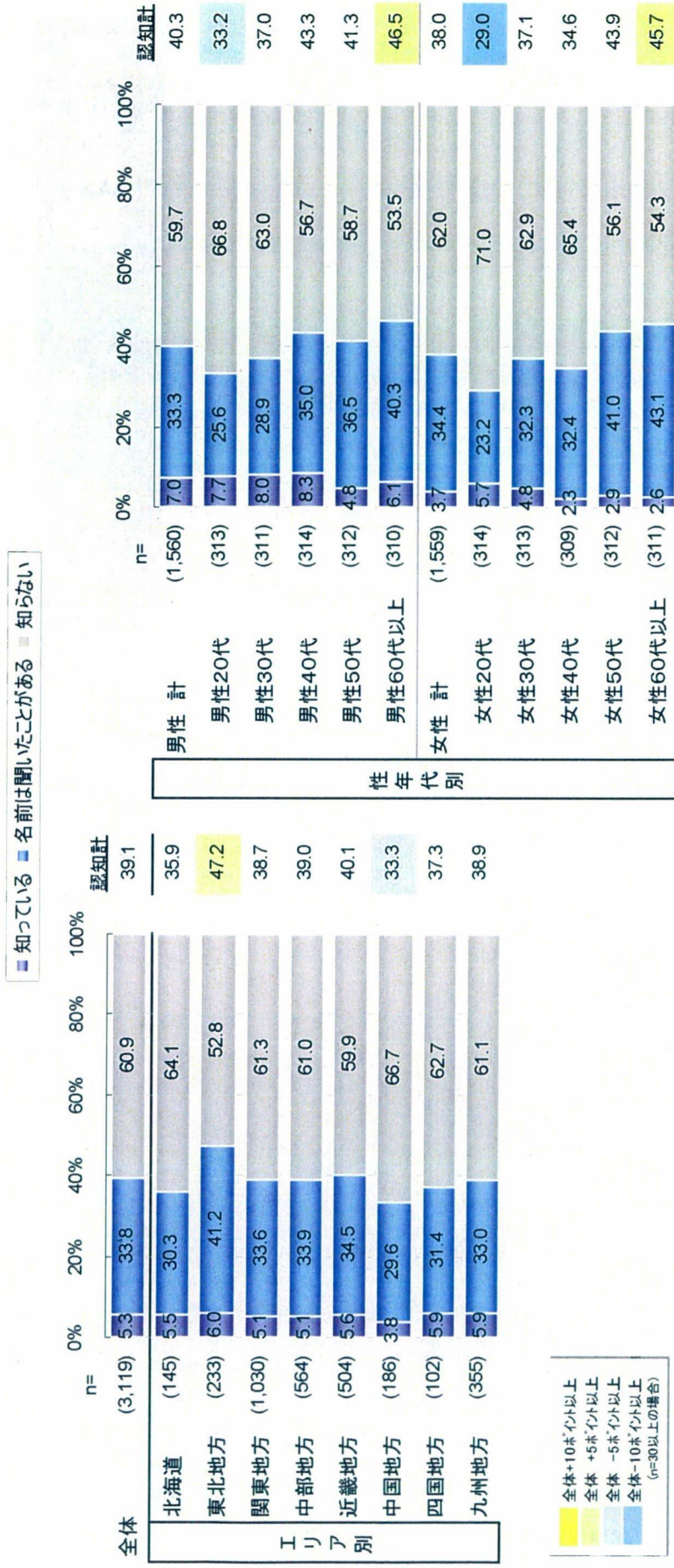
- 『北海道』の利用意向は8割を下回っている。一方、『近畿地方』は9割近くと高い。
- 『女性』の利用意向は、全ての年代で85%を超え、『男性20代』では8割を下回る。

調査結果

1 健康被害救済制度 認知率

単一回答

Q1 あなたは「健康被害救済制度」をご存知ですか。



- 健康被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は、39%。
【エリア別】
- 『東北地方』の認知率が47%と高め、一方、『中国地方』では、33%とやや低めである。
【性別別】
- 『男性』は、「知っている」のスコアが高めの傾向。『40代』では、男女差が大きい。男女ともに『60代以上』の認知率が他の年代と比べ高めとなっている。

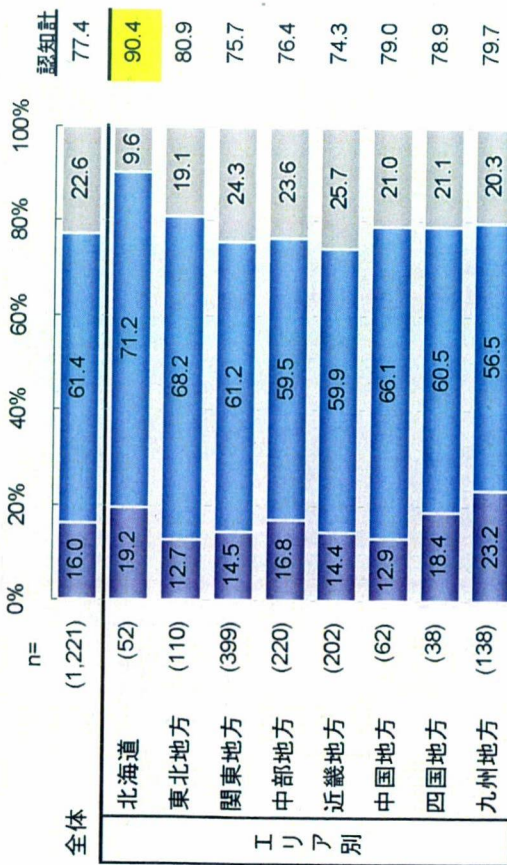
2 医薬品副作用被害救済制度 認知率

単一回答

Q2 あなたは下記に挙げた「健康被害救済制度」をご存知ですか。

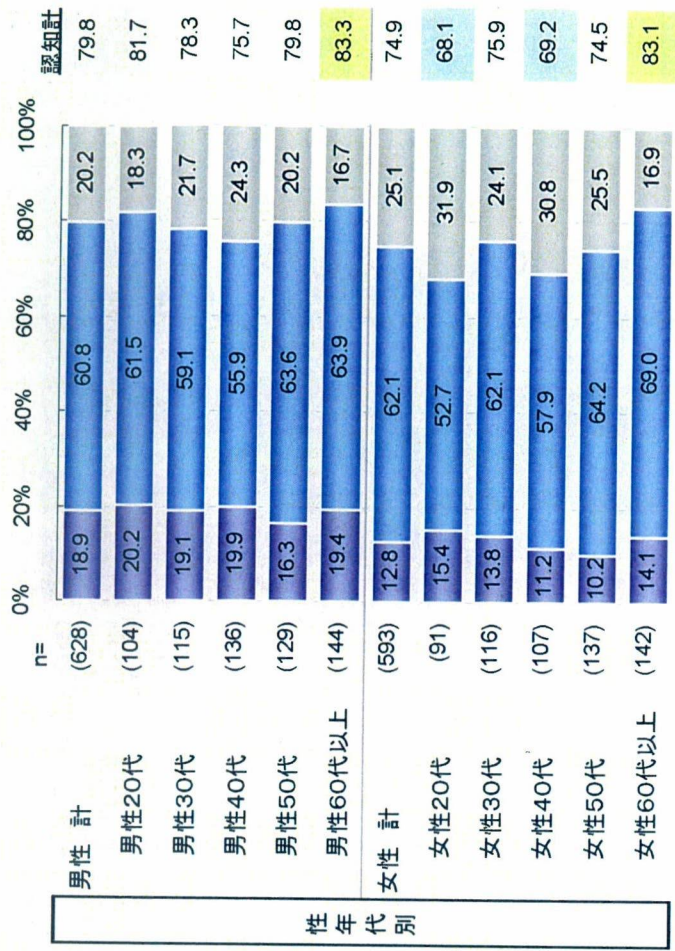
【医薬品副作用被害救済制度】

* 健康被害救済制度認知者ベース



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

■ 知っている ■ 名前は聞いたことがある ■ 知らない



• 健康被害救済制度認知者のうち、医薬品副作用被害救済制度の認知率（知っている＋聞いたことがある）は、77%。

【エリア別】

• 『北海道』の認知率がエリア別で唯一9割を上回っている。「知っている」との回答は、『九州地方』が2割強と最も高い。

【性別別】

• 『男性』の認知率が『女性』よりもやや高め。特に、『20代』は男女差が大きい。男女ともに『60代以上』が他の年代と比べ高めとなっている。

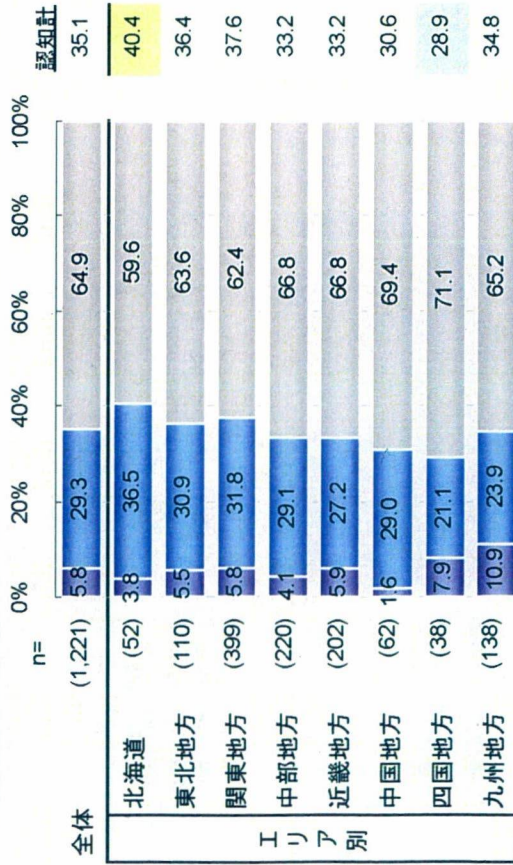
3 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

単一回答

Q2 あなたは下記に挙げた「健康被害救済制度」をご存知ですか。

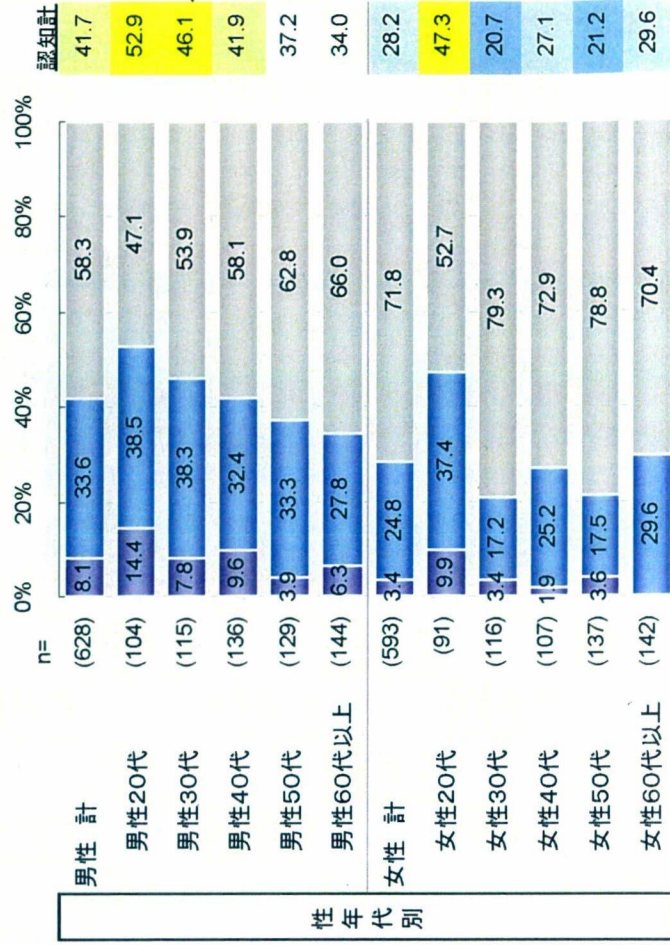
【生物由来製品感染等被害救済制度】

* 健康被害救済制度認知者ベース



全体+10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以上
全体-10ポイント以上
(n=30以上の場合)

■ 知っている ■ 名前を聞いたことがある ■ 知らない



● 健康被害救済制度認知者のうち、生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は、35%。

【エリア別】

● 『北海道』の認知率が4割を上回り、他のエリアと比べ高めとなっている。

【性別別】

● 『男性』の認知率が『女性』を大きく上回る。男女ともに『20代』が他の年代と比べ高めとなっている。

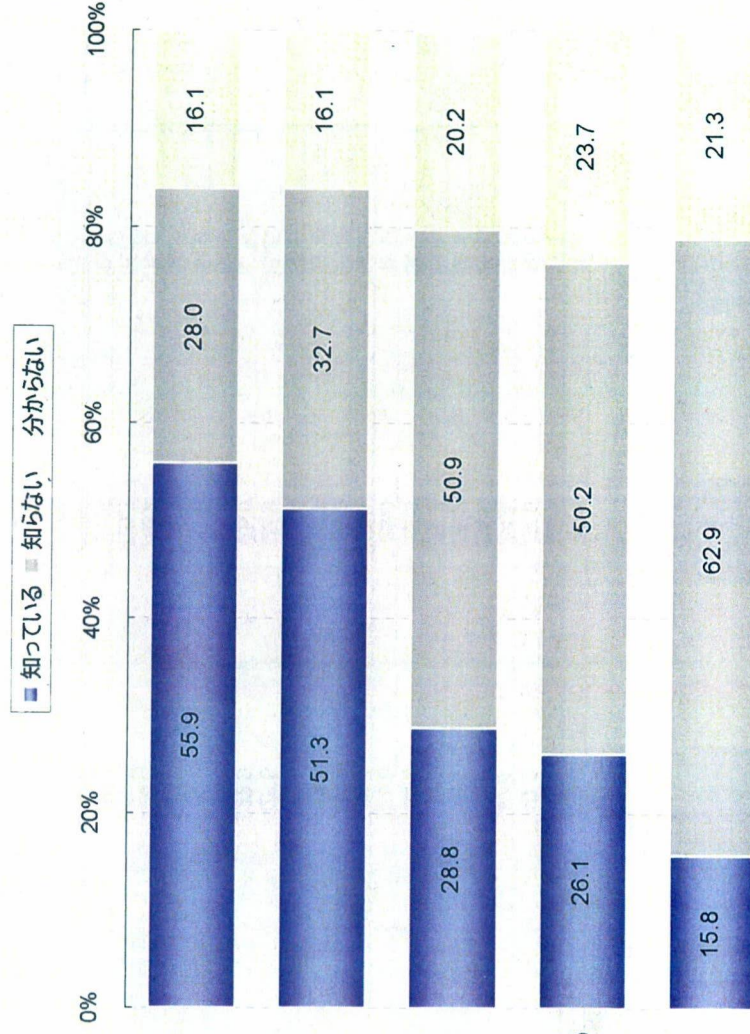
4 健康被害救済制度 内容認知

単一回答

Q3「健康被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

* 健康被害救済制度認知者ベース

(n=1,221)



• 認知率が過半数となった項目は、「医薬品の副作用による被害を受けた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の2項目。

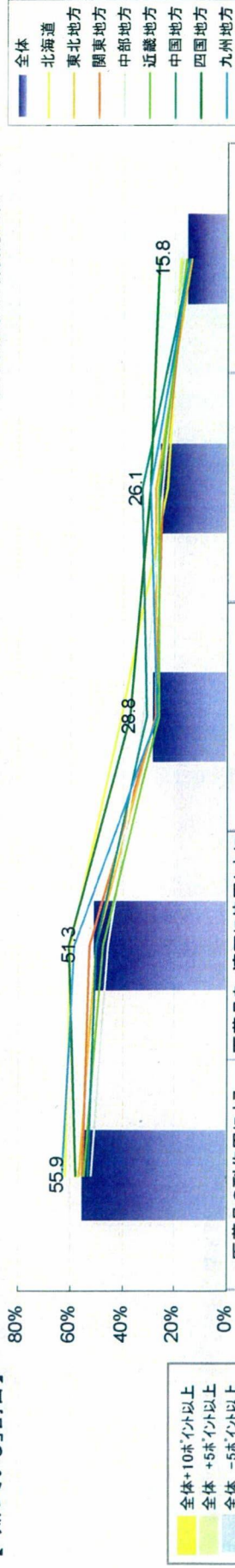
4 健康被害救済制度 内容認知

複数回答

Q3 「健康被害救済制度」について、以下それぞれにあってはまるものをひとつお選びください。

【「知っている」割合】

* 健康被害救済制度認知者ベース



全体+10ポイント以上
全体+5ポイント以上
全体-5ポイント以上
全体-10ポイント以上
(n=30以上の場合)

項目	割合	項目	割合
全体	55.9	給付の種類にはいくつかの種類がある	28.8
北海道	51.3	入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	26.1
東北地方	51.3	給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある	15.8
関東地方	51.3		
中部地方	51.3		
近畿地方	51.3		
中国地方	51.3		
四国地方	51.3		
九州地方	51.3		
男性計	56.7		
女性計	55.0		
男性20代	54.8		
男性30代	60.9		
男性40代	57.4		
男性50代	58.1		
男性60代以上	52.8		
女性20代	50.5		
女性30代	60.3		
女性40代	52.3		
女性50代	51.8		
女性60代以上	58.5		

【エリア別】

・『北海道』『四国地方』『九州地方』は、他エリアと比べて多くの項目で高め。

特に、『北海道』は、「給付の種類にはいくつかの種類がある」、「四国地方」では、「給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」が他のエリアと比べ高くなっている。

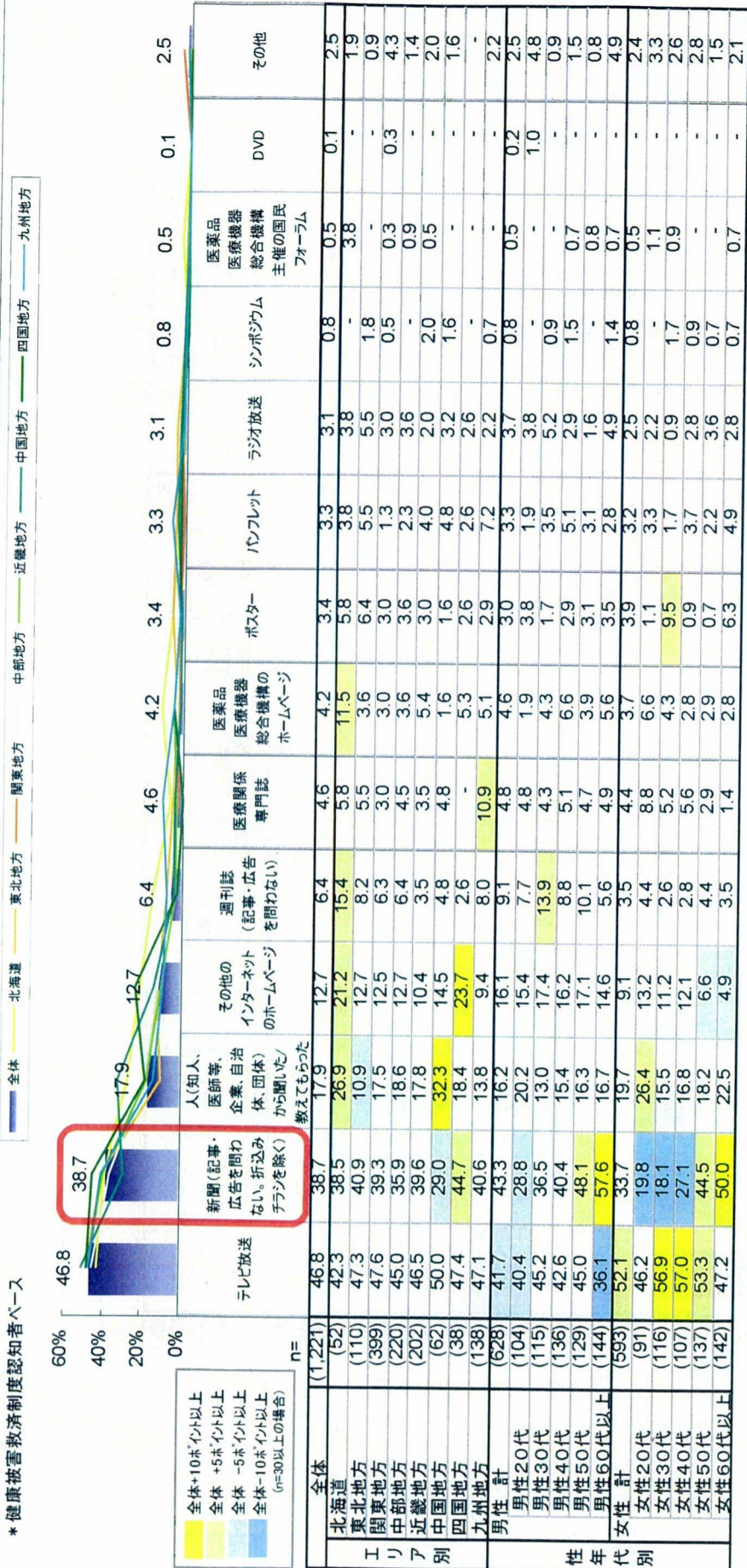
【性年代別】

・「給付の種類にはいくつかの種類がある」で女性が男性よりやや高め。

5 健康被害救済制度 認知経路

複数回答

Q4 あなたは「健康被害救済制度」をどのようにして知りましたか。あてはまるものを全てお選びください。



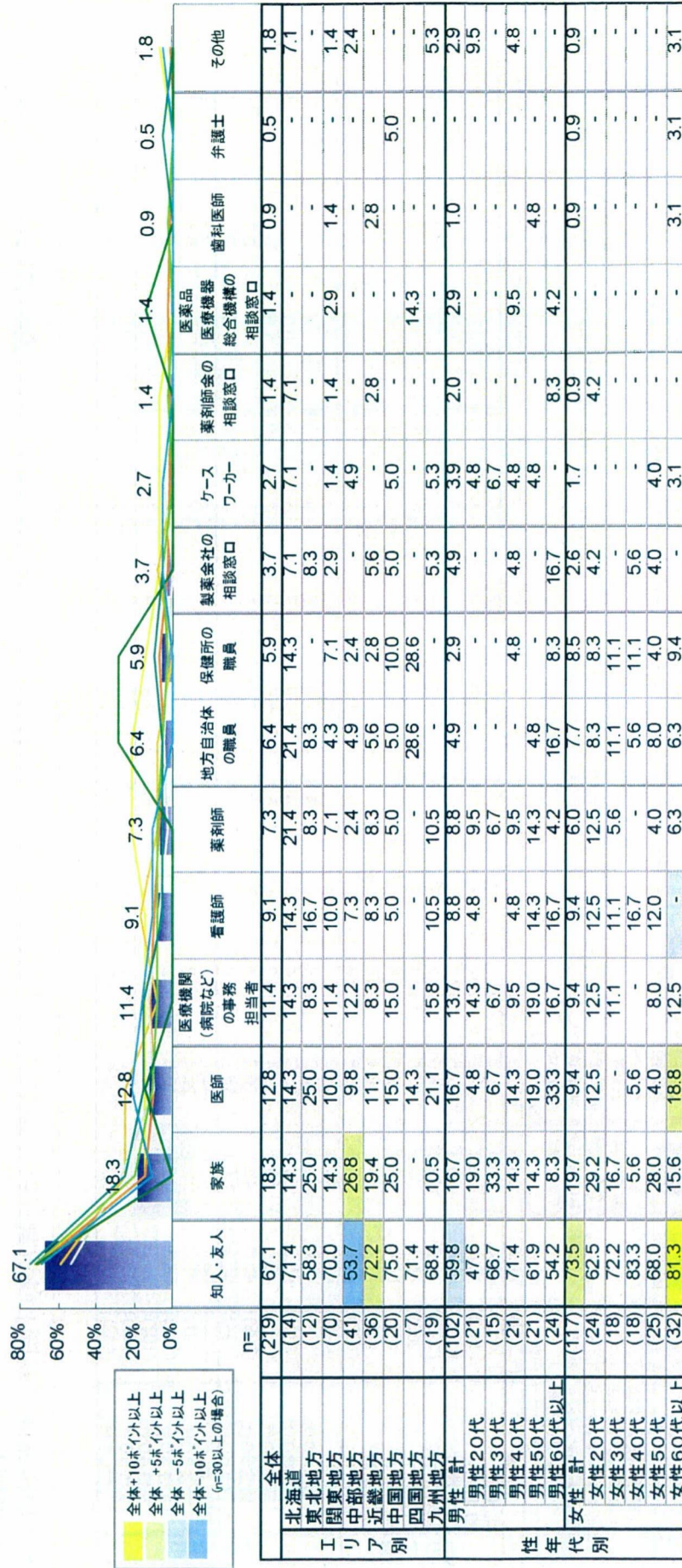
- 認知経路は、「新聞」が約4割と高い。以下、「人から教えてもらった」、「その他のインターネットのホームページ」が1割台で続く。【エリア別】
- 『中国地方』では、「人から教えてもらった」が「新聞」をやや上回り、他エリアと傾向が異なる。【性年代別】
- 「新聞」は、『60代以上』の高年齢層で高めとなっている。

6 健康被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

Q5 あなたは「健康被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものを全てお選びください。

*「人から聞いた/教えてもらった」回答者ベース



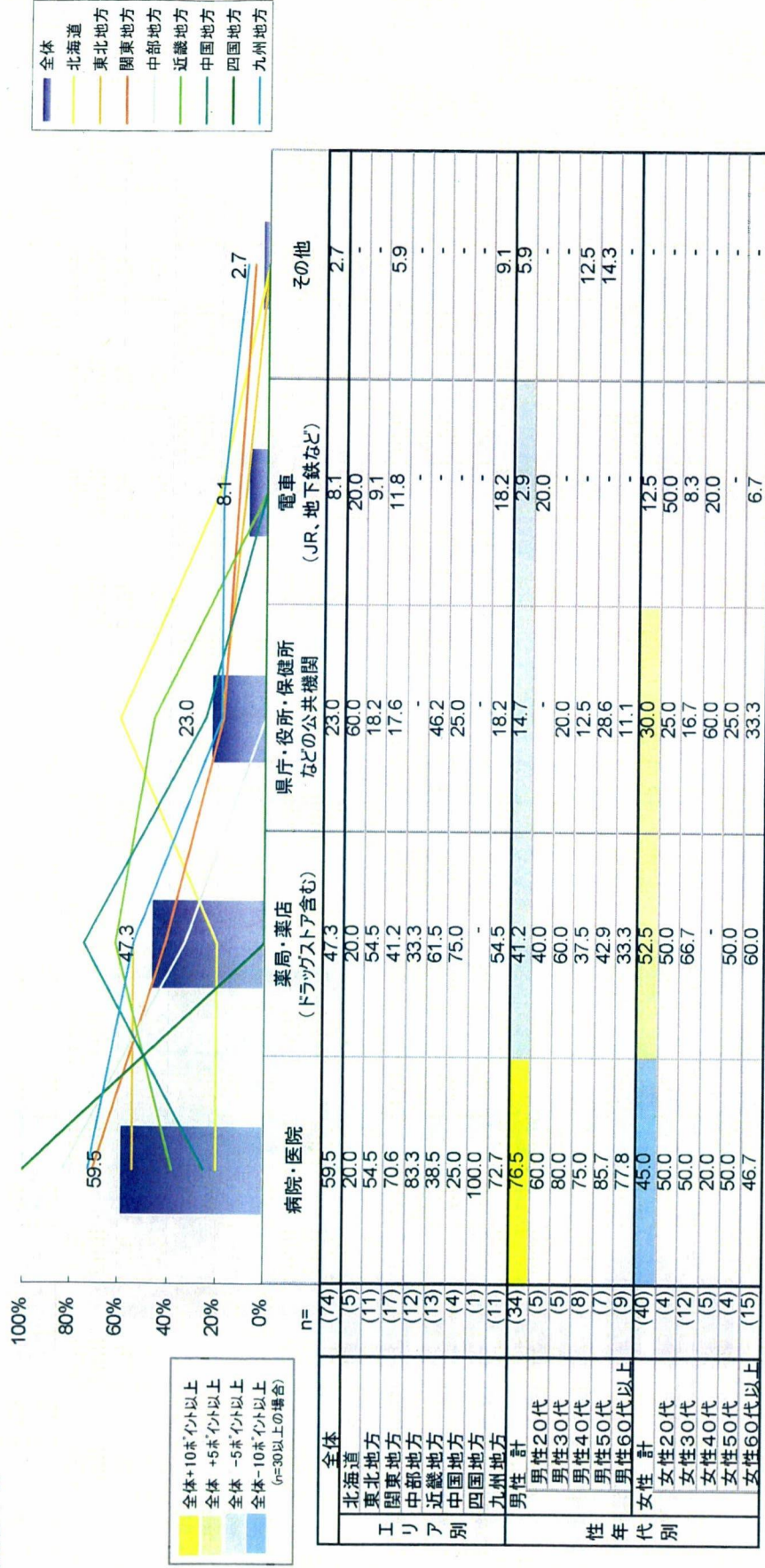
•いずれの層も「知人・友人」が大半を占めている。以下、「家族」、「医師」、「医療機関の事務担当者」などが続く。

7 健康被害救済制度 パンフレット・ポスター・ポスター接触場所

複数回答

Q6 あなたは「健康被害救済制度」のパンフレット、ポスターをどこで見ましたか。あてはまるものを全てお選びください。

*パンフレット・ポスターによる
認知者ベース



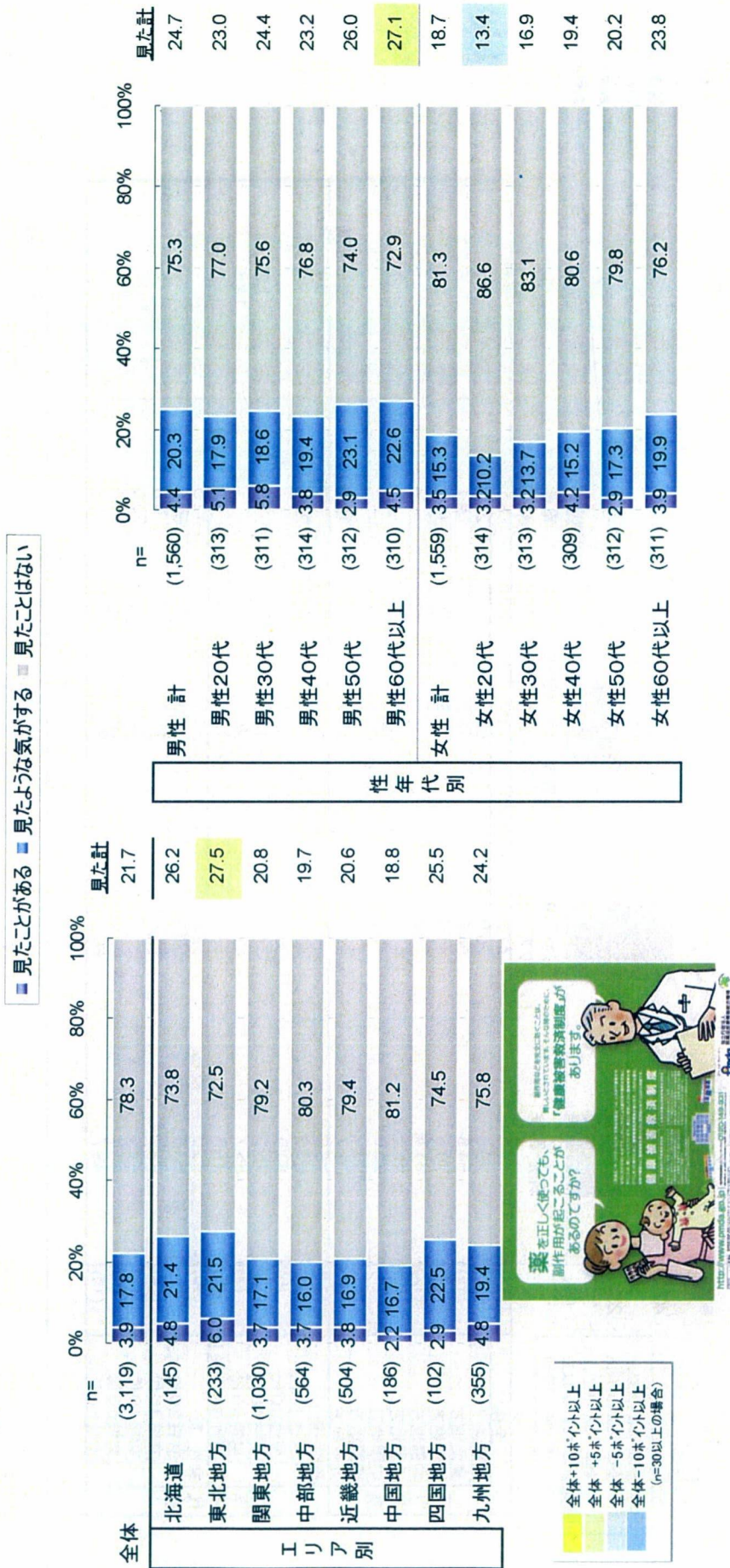
• 主な接触場所は、「病院・医院」、「薬局・薬店」となっている。

n=30未満は参考値

8 広告の認知率

単一回答

Q7 画像をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告を見たことがありますか。



- 広告の認知率(見たことがある+見たような)は、2割強。
- 【エリア別】
- 『東北地方』、『北海道』、『四国地方』、『九州地方』の認知率が、25%前後と高め。
- 【性別・年代別】
- 『男性』の認知率が『女性』をやや上回っている。高年齢層の認知率が高めの傾向。

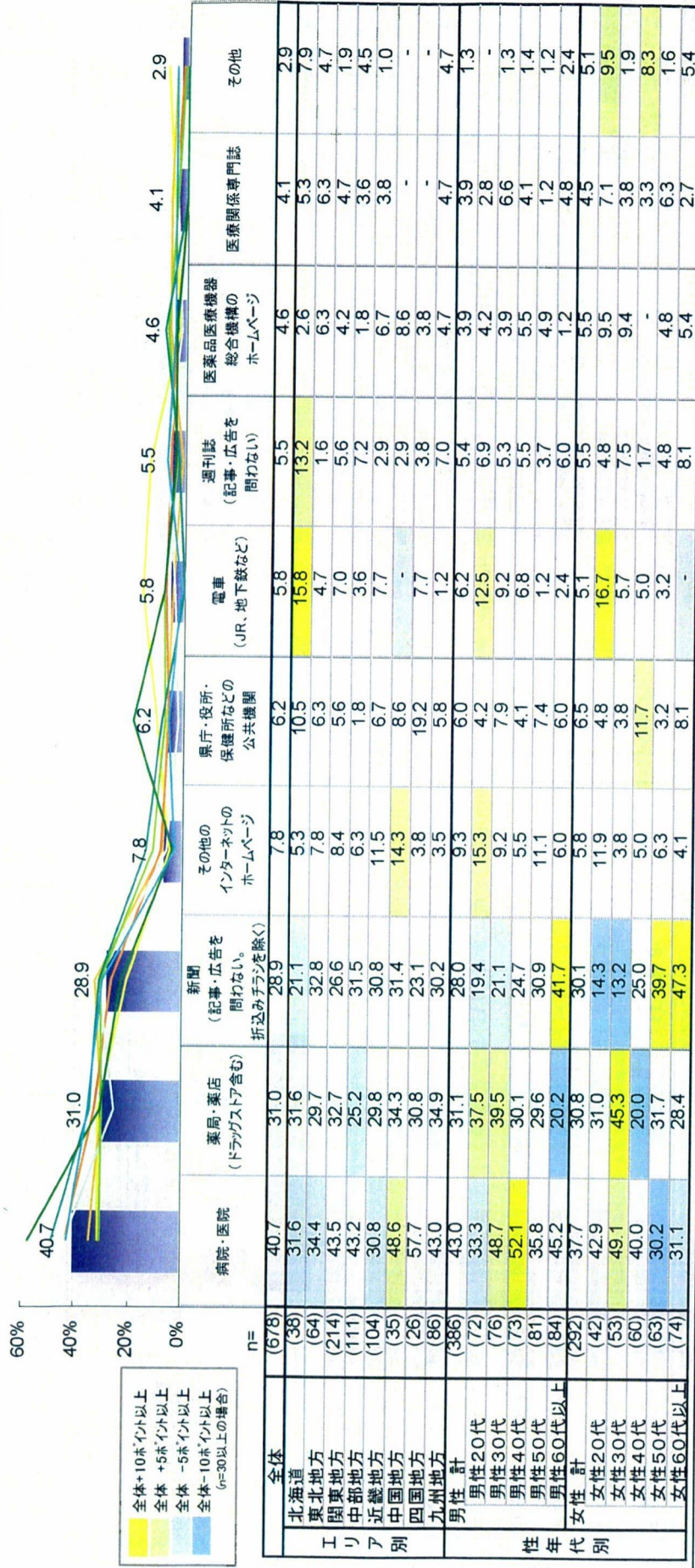
9 広告の接触媒体

複数回答

Q8 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものを全てお選びください。

* 広告閲覧者ベース

全体 北海道 東北地方 関東地方 中部地方 近畿地方 中国地方 四国地方 九州地方



• 広告に接触した媒体は、「病院・医院」41%がトップ。以下、「薬局・薬店」、「新聞」が3割前後で続く。

【エリア別】

• 『北海道』では、「電車」、「週刊誌」が他のエリアよりも高め。『中国地方』は、「病院・医院」「その他インターネットのホームページ」で他エリアと比べて高め。

【年代別】

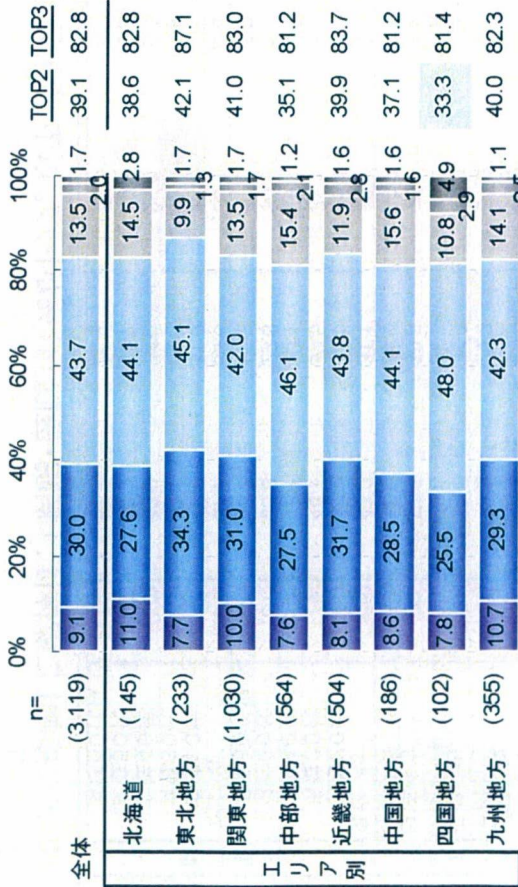
• 「病院・医院」「薬局・薬店」は男女30代を中心に高め。
 • 「新聞」は、男女とも『60代以上』で高く、『女性60代以上』では接触媒体のトップとなっている。

10 健康被害救済制度 関心度

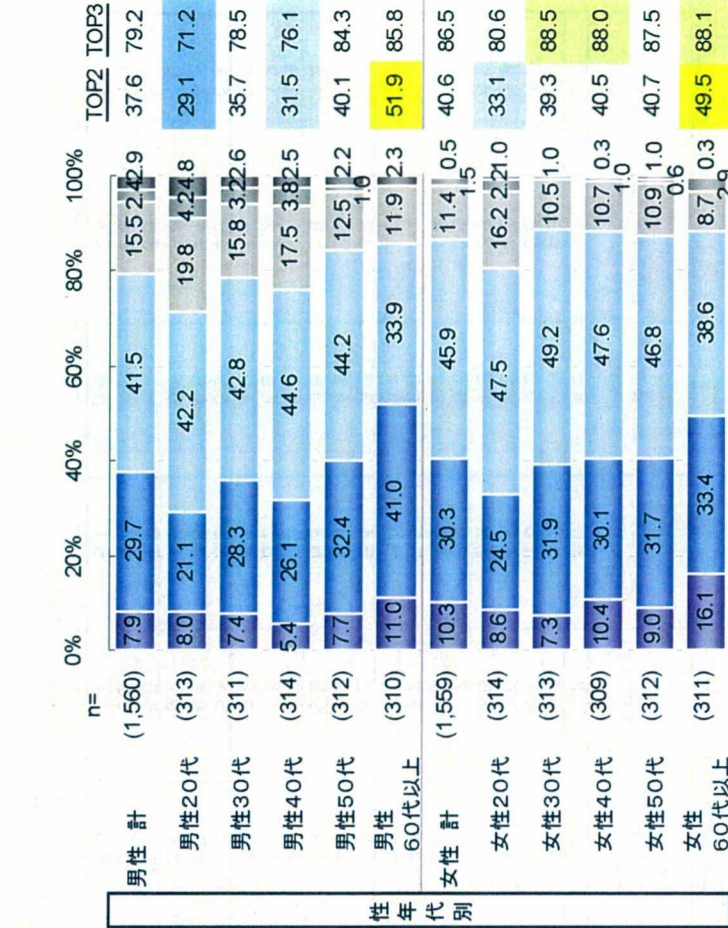
単一回答

Q9 上記の画像をよくお読みになってからお答えください。あなたは「健康被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。

■ 非常に関心がある ■ 関心がある ■ やや関心がある ■ あまり関心はない ■ 関心はない ■ 全く関心はない



■ 全体+10ポイント以上
 ■ 全体 +5ポイント以上
 ■ 全体 -5ポイント以上
 ■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)



● 関心度TOP3(非常に関心がある、関心がある、やや関心がある)は、8割を超える。

【エリア別】

● いずれのエリアも関心度が8割以上となっている。

【性別別】

● 関心度TOP3で見ると、女性のほうが男性に比べて関心が高く、女性30代以上はいずれの年代も9割弱と高い水準。

● 『60代以上』は、「非常に関心がある」+「関心がある」で5割前後と非常に高い。

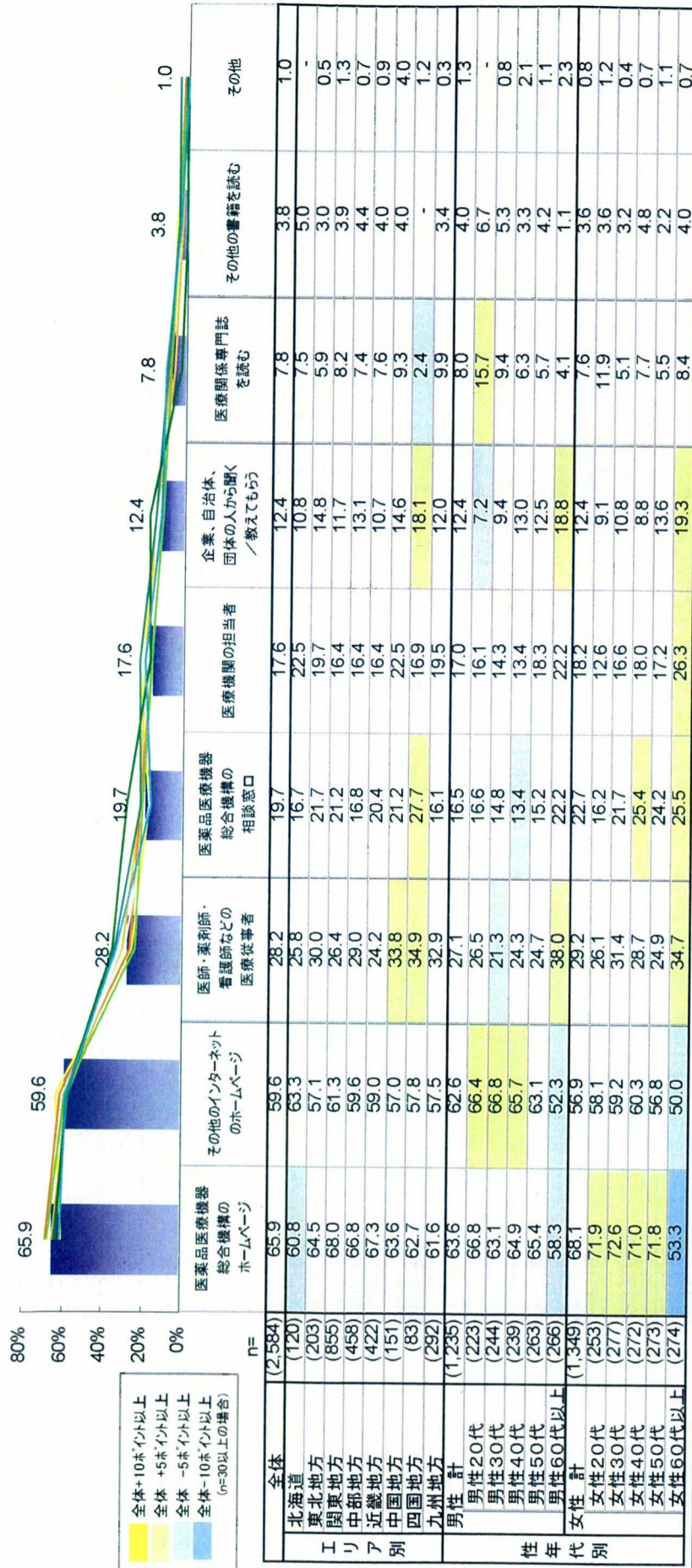
11 健康被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

Q10 あなたが「健康被害救済制度」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものを全てお選びください。

*「健康被害救済制度」関心ありベース

全体 北海道 東北地方 関東地方 中部地方 近畿地方 中国地方 四国地方 九州地方



情報収集の方法として、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、「その他のインターネットのホームページ」、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」、「医薬品医療機器総合機構の相談窓口」といった項目が他のエリアと比べ高め。

- 【エリア別】
- 『四国地方』は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」、「医薬品医療機器総合機構の相談窓口」といった項目が他のエリアと比べ高め。
- 【性別】
- 『女性』は、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、「その他のインターネットのホームページ」がそれぞれ高め。
- 『60代以上』は、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」、「その他のインターネットのホームページ」以外の人を介した情報収集に関する項目が特徴的に高くなっている。